

# 国語科授業案

授業者 石野 裕子

1 日 時 令和7年11月20日(木) 公開授業Ⅱ 14:10 ~ 15:00

2 学 級 3年C組 計36名

3 単元名 私が文学を読む意義 ~読書の意義と効用について理解する~

4 単元目標

・自分の生き方や社会とのかかわり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。

[知識及び技能](3)イ

・文章の種類を踏まえて、物語の展開の仕方などを捉えることができる。

[思考力、判断力、表現力等]C(1)ア

・文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。

[思考力、判断力、表現力等]C(1)エ

・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

5 本単元における言語活動

文学作品を読む意義について、自分の考えを文章にまとめる。

6 単元観

本単元で使用する教材『故郷』は、中国の近代文学作家、魯迅の短編小説で、20年振りに帰郷した主人公「私」が自身の思い出にある美しい故郷と現実の荒廃した故郷との落差を嘆きながらも、若い世代に希望を託す作品である。教科書への掲載は1950年代に始まり、1975年以降はすべての教科書会社に採択されている。時代の流れとともに学習指導要領の内容が変わっても、国語の授業で扱うのにふさわしい教材として掲載され続けているのは、『故郷』が文学作品としての魅力と学習教材としての魅力の両方をもち合わせているからだろう。

国語科の授業づくりについては、中央教育審議会答申(2016)に「依然として教材への依存度が高いとの指摘」とあるように、「教材を」教える授業ではなく「教材で」教える授業への転換が長年の課題となっている。単元を通して育成を目指す資質・能力と単元で扱う教材文の特長が噛み合っているか、吟味して授業を構想しなければならない。『故郷』を学ぶわけではないが、『故郷』だからこそその学びを生徒が実感できる授業を目指したい。

本単元は、生徒にとって義務教育最後の小説教材で学ぶ機会となる。これまで生徒たちは、国語の授業によって多くの文学的な文章と引き合わされ、半ば必然的に読み味わってきた。義務教育を修了し、その営みがなくなったときも、知識を得たり、自分の考えを広げたり、虚構の世界を楽しんだりするときの手段として「読書」が選択肢に在り続けてほしい。このような願いから、[知識及び技能](3)イの指導事項を取り上げ、単元の終末で文学作品を読む意義について自分の考えを文章にまとめる言語活動を設定した。

文学作品を読む意義の具体としては、「多様な価値観に触れる」「自己理解を深める」「共感力を高める」「心の癒しになる」「想像力を豊かにする」「思考力を鍛える」「言語感覚を向上させる」「社会について考える機会を得る」などが考えられる。本教材『故郷』の舞台は、生徒が生活している現在の日本社会の様子とは大きく異なる。時代も国も異なる社会を背景にして生まれた作品だからこそ、その作品と生徒が対峙したとき、丹波(2024)が「読書行為にとっての醍醐味」と語る、自分とは別の世界観を生きる登場人物に感情移入する「同化体験」を通して、自分自身が相対化され〈私〉の認識が変容したり新たな認識を獲得したりする「異化体験」を強く引き起こすと考える。さらに、きめ細かな心理描写、登場人物の思いや社会の変化を端的に表す比喩表現、物語のテーマと結び付く象徴的な表現など、魯迅の文章表現の巧みさが十分に発揮された作品でもある。『故郷』は、文学作品を読む意義について理解を深めさせるうえで、適切な教材だと言えるだろう。『故郷』を読むことを通して生徒一人ひとりが自身に「文学を読む意義」を問い、答えを見出す単元構成にしたい。

本単元の学びと大きく重なるものとして、今年度の5月に実践した『薔薇のボタン』という教材を扱った学習が

挙げられる。『薔薇のボタン』は、一冊の本との出会いによって、筆者が自らの戦争観や職業観を深めていった経験が綴られた随筆文である。沖縄での修学旅行を通して平和や戦争について考えた経験をもつ生徒にとって、さらに別の角度から考えを深めたり広げたりするきっかけになった作品であった。単元の学習活動としては、随筆文を読むことを通して生まれた自身の変容を語り合い、自分にとっての『薔薇のボタン』という作品の価値について文章にまとめた。この時は『薔薇のボタン』に限定して考えたが、本単元の終末ではあえて作品を限定せず、義務教育9年間のまとめとして抽象度が高い課題に取り組ませたい。

## 7 研究テーマとのつながり

義務教育最後の小説単元であるため、これまで生徒が実感してきた学びを生かして作品を読み、単元課題に取り組む姿を引き出したいと考える。教師の手立てによって本校国語科で整理した3つの「学びの実感」自体を味わわせるというよりも、生徒が自ら実感した学びを手立てとして作品を読み味わう姿を価値づけることで、これまで国語の授業で確かに学んできたということを実感させたい。

### ①「言葉や、言葉の役割の重要性の実感」との関連

文学的文章は描写を基に内容を捉えることが必要であり、つまり言葉に注意して読むことが大切である。本教材には「美しい(美しさ)」「壁」「偶像」「道」「希望」など、作品を読み進めるうえで必然的に解釈を迫られる抽象的な言葉がある。これらの言葉をどのように解釈し意味付けるかによって、作品全体の捉え方も変わってくるだろう。一つひとつの言葉の解釈を他者と語り合うことを通して、自分の読みが深まっていくことを実感させたい。

### ②「追究方法の有効性の実感」との関連

本単元は、(1)単元目標に迫るための学級の追究テーマを、生徒の話し合いにより決定する。(2)追究テーマに向けて、小集団を軸とした追究活動を行う。(3)小集団で追究してきたことを踏まえ、学級の追究テーマについて全体で語り合う。という構成になっている。このような単元展開は、2年生の2月に実践した『走れメロス』、3年生の6月に実践した『私』の文学作品でも行ってきた。どちらの単元においても生徒たちは、これまでどのように文学作品を読み味わってきたか(追究してきたか)を想起し、追究テーマの設定や小集団での追究課題の設定や、追究活動そのものに生かしていた。今回の『故郷』でも同様の姿を期待すると同時に、日常の読書生活で文学を読む際にも生かすことを願っている。

### ③「題材に表れた価値や人々の考え方に対するものの見方の広がりの実感」との関連

本教材のテーマのひとつが「希望」である。4ヶ月後に卒業を控える生徒たちは、残された中学校生活を惜しむように楽しみながら、自分の希望する進路実現に向けて勉学に励んでいる。現代の日本社会を生きる彼らにとって「希望」は常に存在しているものであり、敢えて取り上げて考えようとは思わないものだろう。そのような生徒が、「希望とは、もともとあるものとも言えぬし、ないものとも言えない。」という一文が含まれた『故郷』と対峙したとき、きっと自身の中にある「希望」についての“観”が揺さぶられ、変容するに違いない。『故郷』を読んだからこそ、ものの見方の広がりを実感させたい。

## 【参考・引用文献】

三省堂(2021)「現代の国語3 学習指導書」

中央教育審議会(2016)「幼稚園,小学校,中学校,高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」

文部科学省(2018)「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編

藤森裕治(2024)「これからの国語科教育はどうあるべきか」東洋館出版社

高橋伸(2021)「対話的な学びで一人一人を育てる 中学校国語授業 『故郷』の授業」東洋館出版社

杉本直美(2021)「Q&A で学ぶ 中学校国語新学習指導要領」学事出版株式会社

国語教育編集部(2024)「教育科学国語教育 12月号」明治図書出版株式会社

国語教育編集部(2025)「教育科学国語教育 8月号」明治図書出版株式会社

実践国語研究編集部(2025)「実践国語研究 2025年8/9月号」明治図書出版株式会社



<p>第3 〜 7時</p>	<p>〈学級の追究テーマにおけて、小集団で追究しよう。〉 ○小集団で共通の追究課題を設定し、追究する。</p> <p><b>予想される追究課題</b> ※実際に生徒が設定した追究課題は別紙。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『故郷』が書かれた時代背景や作者について調べよう。</li> <li>・登場人物同士の関係性を整理しよう。</li> <li>・それぞれの登場人物にはどんな役割があるか。</li> <li>・「私」にとって「閩土」はどんな存在か。</li> <li>・登場人物の変化(外見、内面、心情、関係性)を捉えよう。</li> <li>・情景描写と登場人物の心情を結び付けて読もう。</li> <li>・「紺碧の空に…」の描写が二回出てくる理由は。</li> <li>・「故郷」は変わった?変わってない?</li> <li>・「美しい故郷」と今の故郷の違いとは。</li> <li>・「閩土」の望むものと「私」の望むものはどこが違うのか。</li> <li>・最後の場面を解釈しよう。</li> <li>・「私」にとっての「希望」とは。</li> <li>・作者にとっての「希望」とは。</li> <li>・なぜ『故郷』という題名にしたのか。</li> <li>・『故郷』を通して作者の伝えたいことは何か。</li> <li>・『故郷』の魅力とは。</li> <li>・『故郷』の文学作品としての価値とは。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間の中で追究課題が変わったり、数時間かけて同じ追究課題に取り組んだりすることもある。</li> <li>・1時間の中に個人追究、小集団追究の時間を必ずとる。他の小集団の生徒と交流することもある。</li> </ul> <p>◎物語の場面展開や登場人物の設定を捉えることができたか。 [思考・判断・表現]</p> <p>◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができたか。 [思考・判断・表現]</p> <p>◎粘り強く文章を読み、考えを深めようとしているか。 [主体的に学習に取り組む態度]</p>
<p>第8時(本時)</p>	<p>〈『故郷』における「希望」とは。〉 ○学級の追究テーマについて語り合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私」は、今の生活を変えたいという希望をもっている。そこには筆者の、中国全体で同じ方向を見て団結したいという願いが表れている。</li> <li>・「希望」は願うだけでは無意味で、行動することが大切と訴えている。</li> <li>・「希望」として「新しい生活」を願っているが、現在の生活の否定が繰り返されているだけである。具体的な「新しい生活」(=希望)のイメージは「私」自身にもないのだろう。</li> <li>・そもそも“「希望」をもつこと”自体が難しいものとして描かれている。</li> <li>・「私」は「希望」という言葉を使って「希望」について語っているけれど、この作品に「希望」は描かれていない。</li> </ul>	<p>◎作品に表れた「希望」について考えを深めることができたか。 [思考・判断・表現]</p>
<p>第9 ・ 10時</p>	<p>〈私が文学作品を読む意義。〉 ○小中9年間の学習を振り返り、自分にとっての文学作品を読む意義を文章にまとめる。</p> <p><b>生徒が挙げた「文学作品を読む意義」の例</b> ※実際の文章は別紙参照。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分とは違う人の生き様から学び自らの人生を豊かにすること。</li> <li>・さまざまな考え方にふれること。</li> <li>・エンパシーの向上。</li> <li>・自分自身を形作ること。</li> <li>・考察の力を育み、視野を広げる。</li> <li>・哲学的アプローチの育成。</li> <li>・心を動かしてくれること。</li> <li>・言葉を生かした文章が作れるようになる。</li> <li>・他人になれること。</li> <li>・感性を磨くため。</li> <li>・自己理解を深められること。</li> <li>・理念の探究。</li> <li>・物語の世界観を楽しむ。</li> <li>・面白いから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習を振り返りながら単元課題に取り組む。具体的な経験や学びを挙げて文章にまとめるよう留意する。</li> </ul> <p>◎文学作品を読む意義について理解を深めているか。 [知識・技能]</p> <p>◎粘り強く文章を読んで考えを深め、これまでの学習を生かして自分の考えを文章にまとめようとしているか。 [主体的に学習に取り組む態度]</p>

10 本時について

(1) 授業名 「希望」(8/10)

(2) 目 標 学級の追究テーマを語り合う活動を通して、作品に表れた「希望」について考えを深めることができる。  
[思考力、判断力、表現力等]

(3) 授業過程

学 習 活 動	・支援及び留意点 ◎評価	形態 時間
<p>○学級の追究テーマについて語り合おう。</p> <p>3C 追究テーマ：『故郷』における希望とは。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私」は「新しい生活」をもつことを「希望」として思い描いている。自分が経験している今の生活とは違う生活のこと。</li> <li>・最後の「道」の話と重ねて読むと、「希望」はもともとあるものではなく、多くの人が歩み続けることで生まれると言っている。</li> <li>・私の解釈は少し違っている。「歩く人」を行動する人と解釈し、多くの人が行動を起こせば希望が実現する、と読んだ。閩土の偶像崇拜を笑ったのは、神に願うばかりで自分では何もしていないからだと考え、その内容を結び付けた。</li> <li>・「希望」が叶うゴールを思い描いていると解釈するか、「希望」をもつというスタートを思い描いていると解釈するかで、物語の終わり方の印象も変わってくる。</li> <li>・どちらの解釈も可能だし、繋がっているとも思う。「新しい生活」が現在の否定ばかりで具体的なイメージをもっていないことから、「希望」をもつこと自体が難しいというのはその通りだろう。</li> <li>・「希望」は明るい言葉だけど、『故郷』の「希望」は全然明るくない。物語全体の内容も、回想の場面以外はずっと暗くて辛い。</li> <li>・閩土は「私」にとって美しい故郷の象徴だった。閩土と「私」の関係のように、身分や職業関係なく打ち解けて和気あいあいとしていたあの頃の故郷を取り戻したい、と思っているのではないか。</li> <li>・でも「私」も「手製の偶像」と言っているように、それもただの願いでしかない。宏児と水生の世代に希望を託しているのも、結局は他人任せでしかなく、主体的な感じがしない。</li> <li>・「希望」という言葉を使って説明されているのは、「私」や魯迅の願いでしかない。そもそも『故郷』に「希望」は描かれていない。</li> <li>・それでも、魯迅は『故郷』を書いた。書かざるを得なかった、というくらい強い思いがあったのだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業開始時に、全体追究を始める時間を示す。その時間までは、追究テーマについて考えをもつために使用する。</li> <li>・学級の追究テーマはく『故郷』における「希望」とはである。「希望」の意味を定義つけるような文言だが、『故郷』に表れた「希望」について広く語り合う活動になることが想定される。</li> <li>・次時に取り組む「私が文学を読む意義(単元課題)」に繋げられるか生徒と確認する。必要に応じて、追究テーマを変えて1時間だけ全体追究を追加する。</li> </ul>	<p>15分 (個人) (小集団)</p> <p>30分 (全体)</p>
<p>○振り返りを記入しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の追究テーマは、解釈が色々あって難しかった。願ってはいないけれど願わなくもないものがだんだん希望になる、というようなことを考えた。言語化するのが難しい。</li> <li>・「私」が望むものは、昔の「迅ちゃん」「閩土」という対等で楽しい関係や生活が続き、それを水生と宏児も体現できること。でもまだその道を歩んだ人がいないから、希望はまだない。「私」だけ新しい生活を夢見て、それで取り残された気分になっている。</li> </ul>	<p>◎作品に表れた「希望」について考えを深めることができたか。 [思考・判断・表現] 【観察、追究用紙】</p>	<p>5分 (個人)</p>